

都道府県名

宮城県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	仙台市立古城小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	2	2	3	4	20	27
児童数	84	97	104	71	71	95	12	534	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学びで輝く子ども

～一人一人が生きる「分かる授業」の創造～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・国語と算数において

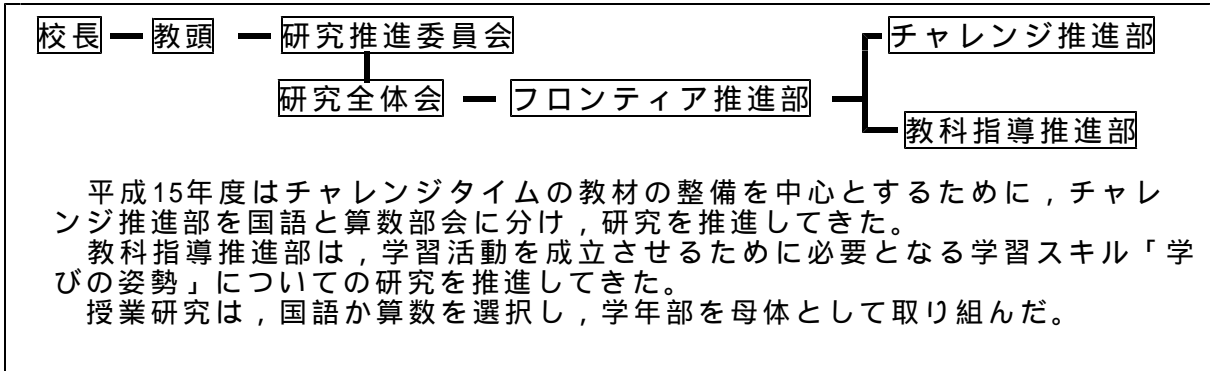
本校では、平成13年度から朝15分間のチャレンジタイムを設定し、国語と算数の基礎学力の向上を目指して取り組んできた。これまでの取り組みの成果と児童の実態調査の結果をもとに、さらなる学力向上を目指した「わかる授業」の創造に取り組む。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 確かな学びで輝く子供～一人一人が生きる「分かる授業」の創造～ 研究の見通し 児童一人一人の理解や実態に応じた指導法や教材の工夫を行い、「分かる授業」を創造する。</p> <p>研究の内容・方法 一人一人を生かし、「分かる授業」を創造するための指導法の工夫改善を図る。～基礎・基本の定着を図るために～ 1) 基礎・基本の定着を図るチャレンジタイムの確立 2) 確かな学力を向上させるための個に応じた学習活動の工夫 3) 少人数指導体制を生かした指導形態の工夫 4) 個に応じた指導を行うための教材教具の工夫 5) 一人一人のよさや可能性を伸ばし、指導に生かす評価の工夫</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 確かな学びで輝く子供～一人一人が生きる「分かる授業」の創造～ 研究の見通し 児童一人一人の理解や実態に応じた指導法や教材の工夫を行い、「分かる授業」を創造する。</p> <p>研究の内容・方法 一人一人を生かし、「分かる授業」を創造するための指導法の工夫改善を図る。～自分で考え、自分の言葉で表現できる力の向上を目指して～ 1) 基礎・基本の定着を図るチャレンジタイムの確立 2) 確かな学力を向上させるための個に応じた学習活動の工夫 3) 少人数指導体制を生かした指導形態の工夫 4) 個に応じた指導を行うための教材教具の工夫 5) 一人一人のよさや可能性を伸ばし、指導に生かす評価の工夫</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

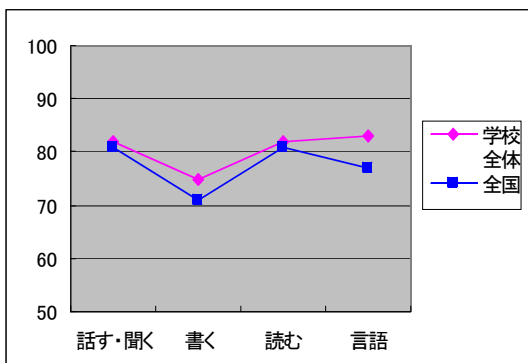
1. 研究の成果

一人一人を生かし、「分かる授業」を創造するための指導法の工夫改善

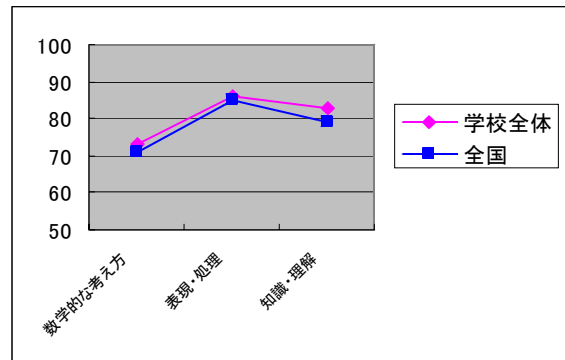
1) 調査結果から

2年生から6年生の児童を対象に国語と算数の新CRT観点別到達度学力検査を実施した。また、昨年度まで総合的な学習を中心に進めてきた研究の成果を探るために「生きる力」がどのように身についているか、ベネッセの意識調査を参考に調査を行った。(グラフ1、2、3参照)

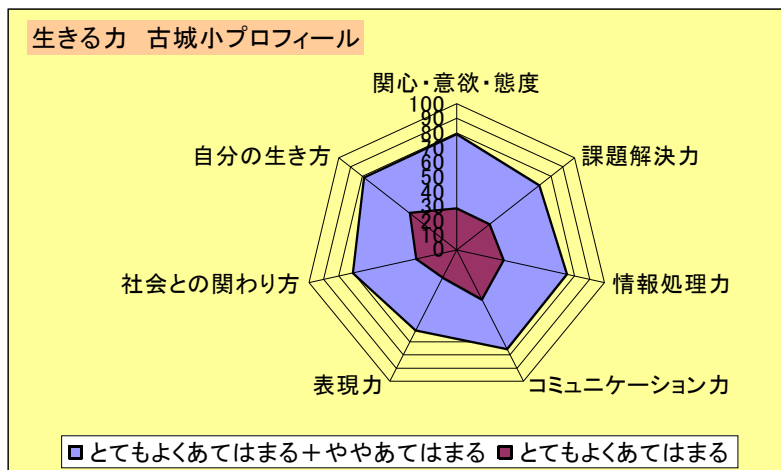
これら2つの調査の結果から、国語科での書く力、算数科での数学的な考え方が他の領域に比較すると到達度が低いこと、また、自分の考えを分かりやすくまとめ表現する力の不足も指摘され、国語科や日常生活での一層の指導が必要となることが分かった。



グラフ1 国語の学力テスト結果

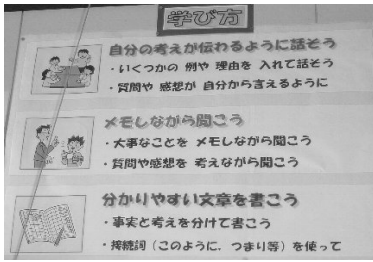


グラフ2 算数の学力テストの結果



グラフ3 「生きる力」意識調査結果

2) 「学びの姿勢」の確立



学習方法の基礎・基本となる、授業を成立させるために必要な学習スキルを「学びの姿勢」として「話す・聞く・書く」の領域に分け、学年部別系統表を作成した。各教室に掲示し、日々の授業や日常の活動で意識して身につけさせるようにしてきた。

発達段階に応じてこれらの力（態度や習慣）が系統的に身に付けられるように、全校が一致して取り組み、意識的な指導が進められつつある。

3) チャレンジタイムの教材の整備

「分かる授業」を進める上での土台となる基礎・基本の力を定着させるために、火曜日から金曜日まで15分間のチャレンジタイムを設定した。教科は、国語科と算数科とし、チャレンジタイム独自の大まかな指導計画をたて毎日の指導にあたってきた。国語科では、新出漢字・既習漢字の習得・定着を図るとともに、書く・聞く・話すなどの領域においても、授業に必要な事項を系統立てて指導を進め、チャレンジタイム以外の指導との関連性を深めてきた。算数科では、プリントによる反復学習の時間とし、児童の一人一人の習熟の度合いを尊重しながら、学習内容を確実に定着できるようにしてきた。

チャレンジタイムで使用する各学年の教材を整備し、基礎・基本の力の充実を図ることができた。

4) 確かな学力を向上させるための個に応じた学習活動の工夫（授業研究等から） 一斉指導の中での個に応じた指導

（1年国語 よんでみようかいてみよう「おもちゃとおもちゃ」）

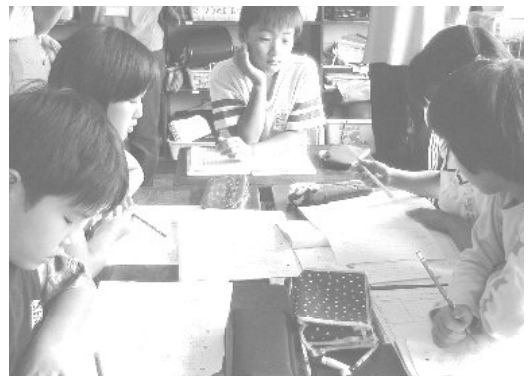
基本的な言語事項である「拗音」の読み・書きの確実な習得をめざして指導した。指人形を用いて、児童の興味・関心を高めるとともに、発音から、ねじれの音の存在に気付かせた。また、一斉指導における一斉読み・リレー読み・ペア読み・たけのこ読みなど、いろいろな読みの活動は、個に応じた学習と学び合いの両方が生かされる学習となった。



TT指導体制での個に応じた指導

（4年国語 話し合って意見をまとめよう「無人島で暮らすとしたら」）

互いの意見の共通点や相違点を考えながら、グループのメンバーの話聞き、意見をまとめる方向で話し合いをした。グループの中で個々の役割分担を明確にすることで、どの子も話し合いに積極的にかかわる姿が見られた。一人一人に発表メモを持たせたことも、自分の意見をなかなか言えない子への支援として効果的であった。話し合い活動においてTT指導体制をとることは、話し合いへの取り組みの意欲が高まらない子への言葉かけやグループ全体への支援の言葉かけをきめ細かく行うことにつながり、グループでの話し合いをスムーズに進めるためには、効果的な指導体制であることがわかった。



算数の授業においては、

- ・ 導入の工夫
- ・ 問題解決的な学習を取り入れる
- ・ 具体的な操作活動や体験活動を取り入れる
- ・ 発表（練り上げ）の場の設定
- ・ 学び合いの場の設定
- ・ 学び直しの場の設定



などの授業構成の工夫を図り、個に応じた指導方法を工夫するようになってきた。

2年生の「かけ算(2)九九をつくろう」の学習においては、かけ算九九の秘密を発表する指導計画を立て、自分たちの力で発見したことを教え合い、互いに学び合う場を設定した。自分たちが見つめなかつたことを知るチャンスとなり、他のグループの発表を興味深く真剣に聞く姿が見られた。

5, 6年生では、小数や分数の学習の後に2時間のコース別学習の時間を設定し、自分がもっと確実に身につけたい分野をもう一度学習する学び直しの時間とした。自分でコースを選択できるようにしたことで、児童の学習意欲の喚起につながり、学習内容の確実な定着につながった。

5) 少人数指導体制を生かした指導形態の工夫

全学年に少人数担当を配置し、算数科を中心に少人数指導体制が取れるようにした。その際、学年部ごとに下記のような流れに基づき、児童の実態や単元の構成に応じて少人数指導体制を工夫するようになってきた。

低学年	中学年	高学年
TT指導	TT指導	TT指導
単純分割少人数	単純分割少人数	単純分割少人数
コース選択型	興味関心別・コース選択型	興味関心別・コース選択型
	習熟度別少人数	習熟度別少人数

その結果、どの学習過程でそれぞれの指導形態を取り入れたら効果的であるかが、わかってきた。

- ・ TT指導 導入部分で、これから学習することについての共通理解を図ったり、いろいろな考え方をお互いに出し合ったりする段階。
- ・ 単純分割型少人数 分数×整数、分数÷整数のように学級内において理解力、計算力にあまり差がない段階。
- ・ 習熟度別少人数 分数×分数、分数÷分数のように確実に理解させたい学習内容の段階。

以上のような段階で、少人数指導体制が生かせることがわかった。

習熟度別学習・コース別学習を取り入れた実践例

(6年算数 分数のかけ算・わり算)

指導にあたっては、小単位ごとに、チェックテストを実施し、自分の理解にあったコース(習熟度別)が選択できるようにした。単元の最後には、コース別学習による学び直しの時間を設定し、学習内容の確実な定着が図れるようにした。



習熟度別学習・コース別学習を取り入れた実践例

(5年国語 伝え方を選んでニュースを発信しよう)

学年2学級を習熟度別に3, 4分割した少人数指導を行った。

習熟度別少人数指導を取り入れることによって、きめ細かな指導となり、書く意欲がもてない下位群の児童に対しても、満足感をもたせ、書く意欲を刺激しながら、書く力を高めることにもつながった。

国語科でも少人数指導が可能であり、効果的な単元・領域があることがわかった。

6) 個に応じた指導を行うための教材・教具の工夫
算数的活動を補助する具体物・半具体物の工夫と活用を図った。
特に、2年生においては九九用具体物をそれぞれの段にあわせて作成し、具体物の操作によって、九九の理解を深めることができた。

また、

仙台市小学校教育研究会 算数研究部会のページ

九九ランド

小学校算数ミニプログラム

等コンピュータソフトも(Webサイトのコンテンツ等)習熟の段階で活用してきた。
児童一人一人の理解に応じて進めることができるので、どの子も喜んで取り組んでいた。

7) 一人一人のよさや可能性を伸ばし、指導に生かす評価の工夫

- ・ レディネステスト・チェックテストを習熟度別少人数学習のコース分けに活用してきた。児童の細かな実態把握とその後の変容の把握になり、指導と評価の一体化を図ることができた。
- ・ 自己の学習の経緯が分かるように、つねに児童の作品などの資料はファイリングし、蓄積するようにしてきた。チャレンジタイムで使用したプリントはチェックカードとともに累積してきたので、そのまま評価にも使える資料となった。
- ・ 「ふりかえりカード」の活用を図り、自己評価を記入させるようにしてきた。カードに書き込まない場合でも、ノートに学習感想を書くように習慣づけるようにしてきた。学習内容の確かな理解・把握を促し、学習の変容をつかむために、効果的であった。
- ・ 作文やスピーチの学習では、相互評価を活用した。互いのよい点を認め合い、高め合うことにつながった。

8) 家庭との連携・生活チェック表の活用

学校だよりで、学力向上のためには、基本的な生活習慣をしっかりと身に付けることや家庭学習を習慣付けることの大切さについて紹介した。また長期の休み明けには、生活チェック表を全児童に配布し、規則正しい生活のリズムを取り戻すための手立てとなるようにした。保護者からの励ましの欄に書かれた言葉から、子どもたちの生活リズムに目を配るようになった保護者の姿勢の変化がうかがえた。

学力向上のためには、規則正しい生活習慣が大切であること、また家庭学習の習慣づけも必要であること、そのためにも学校と家庭が一体となって取り組む必要があることを共通理解することができた。

2. 今後の課題

1) 「学びの姿勢」の定着をめざした「話す・聞く・書く」力の向上を目指した具体的な手立ての系統化

2) チャレンジタイムの指導内容の検討

3) 指導計画をたてる段階において

- ・ より一層の学級経営の充実
- ・ 国語科、算数科における少人数指導体制作り
- ・ 個に応じた指導のための発展的な学習や補充的な学習の推進
- ・ 学び直しを取り入れた指導計画の作成

4) 授業時間で考えていくこと

- ・ イメージ化を大切にした授業作り
- ・ 学習形態を工夫した学び合いの場が見える授業作り
- ・ 練りあいの場の設定
- ・ 「ふりかえりカード」等の評価カードの検討

5) 日常活動で

- ・ 言葉によるイメージ力の育成
- ・ 家庭との連携

学力等把握のための学校としての取組

<p>学力テスト 目的：国語と算数における観点別到達度を知るため。 実施内容：新CRT観点別到達度学力検査を2年生から6年生に実施。 実施時期：平成15年4月25日 (平成16年度4月にも実施し、児童の学力の変容を客観的にとらえる計画である。)</p> <p>「生きる力」の意識調査 目的：昨年度まで総合的な学習を中心に研究を進めてきたのを受け、その結果子供たちに生きる力がどのように身についているかを知るため。 実施内容：「関心意欲態度」「課題解決力」「情報処理力」「コミュニケーション力」「表現力」「社会とのかかわり方」「自分の生き方」についてのアンケート項目を作成し、調査する。 実施時期：平成15年5月</p> <p>生活チェック表 目的：基本的な生活習慣をしっかりと身に付け、家庭学習を習慣付けるために。 実施内容：規則正しい生活のリズム、家庭学習の習慣が身についているかどうかを10項目確認する。 実施時期：長期の休み明け(8月、10月、1月)</p>

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<p>* 公開研究会 平成15年度 授業研究会 日時：平成15年11月20日(木) 場所：仙台市立古城小学校 対象：市内フロンティア校、近隣校</p> <p>平成16年度 公開研究会(予定) 日時：平成16年11月12日(金) 場所：仙台市立古城小学校 対象：市(県)内外の教職員 古城小学校の保護者 目的：2年間の研究指定校としての成果を発表する。</p> <p>* 研究成果普及のために学校のHP上で研究の成果を作成。 * 研究紀要を作成し、平成15年度のまとめとする。平成16年度については、公開研究会時にパンフレットならびに研究紀要を作成予定。</p>
--

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無